



[特集]

山は語る

なだらかな山々に囲まれている一関市。
 私たちは、里山の麓で山と共に生活してきた。
 近年、山が荒れ、野生鳥獣が増えている。
 人が山に入らないからだ。
 私たちの暮らしが、おびやかされている。
 人と山が共生するために、
 私たちができることは何だろう。
 山に深く関わる人たちを通じて、
 山の声が聴こえてくる。

あい **な**人 File_42
 いらのせきを愛する人

岩手県スポーツ吹矢協会会長

萩田 進さん

Hagita Susumu 70 真柴



実直な人柄と信念で 師範との約束を果たす

「みんなの力で大会が無事に終わりました」。そう話す萩田さんは、県スポーツ吹矢協会の会長。スポーツ吹矢は第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」のデモンストレーション競技として9月25日に行われた。

スポーツ吹矢は、直径30センチほどの的に狙いを定め、1センチほどの筒にプラスチックの矢を入れて吹き、命中した箇所の得点の合計を競う。複式呼吸で血流がよくなり、気分がリラックスする効果やストレス解消にもつながるといわれている。

吹矢との出会いは、10年ほど前。母の介護のため、会社を退職し、東京へ帰郷した萩田さんは、知人の勧めで自宅近くにあるスポーツ吹矢教室に参加。矢が放たれる瞬間の「パシッ」という音と、的に命中したときの爽快感が介護の疲れを癒やしてくれた。以来、吹矢は萩田さんにとって、なくてはならないものになった。

2010年に母が他界し、萩田さんは岩手に戻る。13年5月、東京で吹矢を教わった師範から「岩手の国体でぜひ吹矢を競技として開催してほしい」と電話があった。頼まれたことは全て引き受ける実直な性格。開催に向けてすぐに準備を始めた。

当時の競技人口は、市内でわずか3人。まずは競技を知ってもらうことが大切と考え、市内の公民館全てに足を運んだ。地道な努力が実り、老人クラブ、民区やPTAなどの行事で吹矢が取り入れられるよ

うになった。14年には初の市長杯大会も開催。「師範は、いわて国体前にこの世を去りました。師範との約束を果たすことが私の役割でした」と当時を振り返る。

迎えた今年のいわて国体には、県内から選手160人、役員39人が参加。大会は大成功に終わり、市の協会も設立した。

「吹矢が地域の交流を促す手段になれば」と願いを込める。真つすぐに的をめがけて放たれる矢は、萩田さんの生き方そのものだ。

Profile

1946年東京生まれ。大学を卒業後、千厩町内の会社に就職。2013年からスポーツ吹矢の普及活動を始め、今年の希望郷いわて国体でデモンストレーション競技大会を成功に導く。現在、県スポーツ吹矢協会会長。総合型地域スポーツクラブ「グッジョブクラブ」の代表も務める

絶対に着たい一着がここにある

YUMI KATSURA × フライダルサロン七福人

新年中ご成約の方にスペシャル特典が!

クリスマス新作発表会

12.11-25

【Place】フライダルサロン七福人
 【Time】AM10:00~PM6:30

フライダルサロン七福人 ☎0120-188-500

【写真】健康の森に群生するブナの木